

(議事要旨) 第17回交通政策審議会航空分科会基本政策部会

日時：令和3年6月10日(木)

場所：中央合同庁舎2号館 共用会議室3

○カーボンニュートラルの実現のために、SAFの確保が重要であるが、機内食容器のサトウキビ原料由来に変更、ストローなどは紙製に変更、フードロス対応で機内食事前予約やキャンセルなどご説明いただいた身近な取組も重要である。

○ESGに関して、投資家の方々は好意的に受け止め、理解いただいているとのことであり、経営戦略として重要である。

○お客様の参加感を醸成していくことがポイントになる。定時運航に対するお礼のアナウンス、エコに貢献したことなど、お伝えするようなコミュニケーション計画などもあったらいいのではないか。

○空港でGSEの共通化が必要であると感じたが、費用負担の問題として運賃転嫁は難しいのではないか。コストは必要なので、国費や旅客負担のPSFC、PFCなどもあるが、旅客負担の制度の検討が必要であり、旅客に対して説明も必要となり中長期な財源の計画が重要である。十分議論していく必要があるのではないと考える。

○SAFに関して、業界全体で取り組むということが必要だと考える。

○公益的な目線で課題を出していただいたという点で、大変すばらしい発表だと感じた。

○方向性も見え、具体的な活動も見える化しているので、重要になってくるのは、情報共有と、先進的な事例をすぐに水平展開していくことにある。グリーン政策について地域の空港で先進的事例を早く出し、ノウハウを瞬時に情報共有できるようなハブ機能を、航空局の中に環境視点で置いていただくのが重要である。リアルタイムでの情報発信ができるとうい。

○3分野しっかり一丸となって取り組んでいただきたい。JクレジットをCORSAへ  
認証していただけるように取り組んで行くことが重要である。

○SAFについて、その原料はいろいろなものがあることが分かった。使い方によっては、  
これまでの我が国の課題も同時に解決するような、潜在的な取組になり得ると感じた。

SAFという形で供給の出口があるのであれば、農政の問題も一つ大きく動くことにな  
ると感じたので省庁横断でこの問題に取り組み、進めていただきたい。

○新技術導入について、日本でも安全基準を検討、導入の方策を検討し、国際標準化機関  
へ提案していくということが非常に重要なことである。日本国内で作られる製品の実用化  
につながり、将来的な電動航空機や水素航空機の早期実現につながるので、積極的に進め  
ていただきたい。

○データ通信について、安全面においてもよく類似コールサインの問題など懸念事項が聞  
かれたが、文字で伝わることにより間違いが減るということで、安全性の向上につながる  
のではないかと感じた。ただ、これまでは洋上のみで使用されていたのが、国内の混雑  
領域で、音声通信も多数あるなか、データ通信と両方を扱うことで、ワークロードが増加  
するのではと感ずるので安全性の観点からも検討し安全の確保も重要である。

○全体について、コロナの影響もあるが、脱炭素への要請という中で日本のエアラインは  
できることが極めて限られていると感じた。

3分野で脱炭素を進めるとのことだが、機体はボーイング、エアバスなど海外に依存し、  
燃料は、エネルギー業界に依存する部分が大いと感じる。航空業界でできることは、オ  
ペレーションの最適化と認識したが、管制最適化のAIの活用などデジタル化し、より効  
率的に最適化をしていくということが非常に重要になってくる。

○丁寧に試算等されているが、達成可能な数値なのか、達成しなければいけない数値なの  
か、障壁があるのか、どの部分に支援を手厚くしなければいけないのか、もう少し踏み込  
んだ議論がなされると現実味が増しよと感じる。

○内容的に今後、政府の取組の中にうまく入っていくという方向感もあるが、同時に航空セクターとしてしっかりと打ち出しができる方向感があると、さらに議論がしやすく、議論にふさわしい。航空分野が、一定程度、批判も受けつつある分野で、CO<sub>2</sub>削減の取組を国全体として、航空会社、空港と連携し進めていくことが伝わる方がよいと感じた。国としてしっかりとこの問題に取り組んでアピールしていくような、そういう方向感が見せられることが望ましい。

○前回の議論、今日の議論も踏まえて、今日の委員の皆様の意見など踏まえながら方向感を大きく出すよう取り組んでいただきたい。